

指定校番号	29053	学級活動	生徒会活動	○	学校行事	中学校用
-------	-------	------	-------	---	------	------

平成 29 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	三次市立十日市中学校	校長	大原 俊哉	生徒指導主事	金田 耕治
-----	------------	----	-------	--------	-------

取組事例名 『一生懸命について考えよう』**取組のねらい『キーワード 一生懸命』**

- ・本校では、知・徳・体の土台となる「挨拶・姿勢・一生懸命・思いやり」の精神を大切に、「さわやか十中」をキャッチフレーズに取り組んでいる。昨年度は、生徒会活動や学級活動を通して「思いやり」について考えさせた。本年度は、「一生懸命」をテーマとし、学校生活の中での自分や周りの人の一生懸命な姿に気づき、互いに認め合う関係づくりを育成している。

身に付けさせたい資質・能力

- ・自己肯定感及び自己有用感を高める。
- ・共感的人間関係を形成する。

取組の具体的内容『キーワード 自律・自己調整 』

- ・生徒会執行部で企画、総務委員会で今年度のテーマについて提案し、総務委員を中心に日頃の「学級の一生懸命」に立ち返らせ、各学級の一生懸命を定義づけさせた。
- ・各学級で話し合った「学級の一生懸命」を受け、「十日市中学校の一生懸命」について、総務委員会及び生徒会執行部で協力し定義づけした。
- ・決定した「学級の一生懸命」とともに、「十日市中学校の一生懸命」を掲示することでお互いの一生懸命を確認するとともに、生徒一人ひとりが日頃から自分や周りの人の一生懸命な姿に気づき、互いに認め合う関係を築く。また一生懸命に取り組むことを茶化したりする行動を改め、生徒の自己調整の指針とした。

**取組の課題・創意工夫『キーワード 取組を通して「日常化」』**

- ・生徒会の委員会活動や学級活動で、今回の「一生懸命」をはじめ、他にも体育大会等の学校行事に向けてのメッセージカードを作成する等の取組をしている。今後は、これらの取組を通して、生徒たちが気づいたことや考えたことを、自らの学校生活に日常化していける取組の継続性と、さらに、取組の内容を教科学習やあらゆる教育活動と連動させるなどの工夫改善が必要である。

取組の成果（効果）『キーワード 自己有用感の向上』

- ・生徒会行事や活動後の生徒アンケートによると、「自分の良さは、まわりの人から認められていると思う」の項目の目標値 70%に対して、肯定的評価の割合は 72%（1年 74%，2年 72%，3年 70%）であった。
- ・「学校は楽しい」（生徒アンケート）の項目の目標値 85%に対して、肯定的評価の割合は 90%（1学年

93%， 2 学年 90%， 3 学年 88%) であった。

今 後 の 展 開『キーワード 居場所づくり，絆づくり』

- ・今後とも，授業や学級活動，生徒会活動（部活動，委員会活動，行事）等の取組を通して，生徒同士のコミュニケーションで自己有用感が高められる場を増やしていく。そして，生徒たちの活動の様子や感想等を掲示することで，お互い「一生懸命な姿」を認め合い，「頑張ること」の視野も広げていけるよう仕組む。

他校へのアドバイス『キーワード 縦割り集団の活用』

- ・学年を越えた縦割りでの体育大会等の学校行事や生徒会活動を通して，下級生は上級生が集団をリードする一生懸命な姿を見て上級生の良さを，上級生は集団の一員として前向きに協力しながら活動する下級生の良さを実感させることができる。今年度も学級活動で，3年生の立志式の発表会に2年生が，2年生の職場体験学習の発表会に1年生がそれぞれ参加することを計画した。2年生が参加する立志式は，インフルエンザ予防のため実施できなかったが，上級学年の生徒の発表を聞き，自分より一歩先の体験や考え方に触れることで，自分の将来について短期的な目標が持てるような取組を継続していきたい。今，生徒会では卒業式を前にして，3年生から後輩へ，1，2年生から先輩に向けてのメッセージの取組を行っている。メッセージを生徒玄関に掲示し，互いにそれぞれの思いを共有する場となっている。今後とも，縦割り集団を効果的に活用した教育内容を工夫改善していきたい。